

## 鹿児島の動物 42

## フキミな貝類

動物担当 池 俊人

## ヤマナメクジ

夜間に自然林を歩くと、下の写真のようなヤマナメクジの姿を見ることがあります。体を伸ばすと 15cm 以上にもなる姿は本当に巨大で、圧巻です。夜行性で、植物やキノコの他に動物の死体も食べるので、雑食性だと言えそうです。体はもちろん軟らかいのですが、口には歯舌（しぜつ）というヤスリのように小さな歯が並んでいるので、硬いものでも削って食べることができます。飼育下ではニンジンなども好んで食べます。



成貝(左)と卵塊(右) 行田義三氏撮影



## スクミリンゴガイ

別名「ジャンボタニシ」とも呼ばれる南アメリカ原産の外来種で、日本へは食用として導入され、現在では県内のほぼ全域に分布しています。水田や用水路などに生息し、数百個の卵が入った卵塊を水辺に産みつけます。卵塊は鮮やかな赤色をしているので、とても目立ちます。雑草も食べる反面、イネの苗などを食害して被害が出るので、大きな問題となっています。

## アフリカマイマイ

スクミリンゴガイと同様に、食用として日本に導入された外来種で、現在では世界中の熱帯地方に分布している巨大なカタツムリです。県内では奄美群島に広く分布していますが、2007 年に出水市と指宿市の県本土でも発見されたことがあります。このときは幸い発生初期だったために駆除が成功しましたが、これ以上分布を拡大させないために、本種の移動は法律で禁止されています。



ハイビスカスの花を食べる

以上、陸産・淡水産貝類 3 種を紹介しましたが、体が巨大だったり、卵塊が毒々しい色をしたりしていることなどが、不気味な印象をもたれやすい原因ではないかと思えます。

また、これら 3 種は広東住血線虫などの中間宿主になることが知られているので、ヒトに感染する危険性もあります。これらを生食することはないでしょうが、生体にはなるべく触れないようにし、もし触れてしまった場合にはしっかりと手洗いをするなど、感染予防に十分注意しましょう。